

特異な政治体制のもとを不屈の闘志で生き抜いた天才

ショスタコーヴィチ その2

=交響曲=



ソ連時代の作曲家ショスタコーヴィチを語るに「交響曲」を外すわけにはいきません。

今回は交響曲を取り上げます。(彼の創作上の苦悩が端的に示されたジャンル:寺西基之)

世界で初めての共産主義国家、所謂「鉄のカーテン」の内側で生涯国内で活動、たびたびの迫害と抑圧を乗り越えて15曲もの交響曲を作曲。

それぞれの時代背景を反映、曲風が余りにも違うため解釈に戸惑いますが、15曲をその曲風で分類しご紹介、その時代背景を探りたいと思います。

* 初期の主に革命をテーマとした曲。	交響曲2番(十月革命)交響曲3番(メーデー)
* ヨーロッパの絶対的交響曲の伝統と本格的に対決した記念碑的作品。	交響曲4番
* 判りやすい人気曲 (革命) ヴェートーベン風。	交響曲5番
* 筋金入りの反体制作曲家 戦争交響曲3部作	交響曲7番(レニングラード) 交響曲8番、交響曲9番
* 体制との「第10論争」も「楽観的悲劇」という社会主義リアリズムの拡大解釈で統一。	交響曲10番
* 「死者の歌」ともよばれる。死の危険と言う物を常に身近に感じていた。	交響曲14番
* 第2次世界大戦が始まった年に作曲。その暗く不安な時代情勢を反映。	交響曲 6番
* 1905年「血の日曜日事件」標題音楽。	交響曲11番
* 1917年のレーニンの10月革命を描いた。	交響曲12番
* 「バビ・ヤール」の通称で知られ、ナチドイツがユダヤ人を虐殺した史実に基づく詩に作曲。 反ユダヤ主義に無関心なソ連当局を批。	交響曲13番
* 自身の人生を回顧した様な最後の作品。	交響曲15番

* 『分類は「モストリークラシック」産経新聞社及び「ショスタコーヴィチ」千葉潤著 音楽之友社からの抜粋要約』



我孫子オーディオファンクラブ (AAFC) 分科会へのご案内 (会員による自主講座)

日 時 / 10月8日(日) 13:30~15:45

場 所 / 久寺家近隣センター 多目的ホール

発表者 / 山本 一成 全10回予定

参加自由・入場無料

問い合わせ / 090-5422-5479 脇田 <http://www.aafc.jp/>